

上野遺跡第3次調査

3万6千年前の石器群

調査場所 京都府京丹後市丹後町上野

調査期間 令和元年8月27日～令和元年12月19日

調査面積 1,100㎡



写真3 上野遺跡出土石器
1～4 台形石器、5・6 鋸歯縁石器、7 抉入石器
1は玉髄製、2は凝灰岩製、その他はチャート製

歯縁石器を含む石器群の様相から、後期旧石器時代前半の中でも、日本列島最古相の石器群と位置付けられます。



写真4 隠岐島産黒曜石製の剥片

旧石器時代ですが、遺跡が海に近いことから、海洋資源なども利用していた可能性もあります。

遺跡内では、石器を作った形跡があまりないことや、道具の比率が高く、石器の出土点数が少ないことから、狩猟の移動にもなう一時的なキャンプ地であったと考えられます。

今回の調査は、京都府最古の遺跡の発掘調査事例であり、後期旧石器時代初頭の人類活動が、京都府でもあったことを明らかにする大きな成果となりました。

4. まとめ

上野遺跡で当時の人々が生活した後期旧石器時代前半（3万6千年前頃）は、氷河期にあたりますが、その中でも比較的暖かな時期でした。海水面は50～90m現在よりも低く、短期的に上下動していたと考えられています。

石器の石材に、島根県隠岐島産の黒曜石（写真4）も用いられており、当時陸橋を経由するか、筏などを用いなければ行けなかった隠岐島まで、旧石器時代人が活動していたことが分かりました。大型の獣などをとっていたイメージの強い

用語解説

始良丹沢火山灰（AT）

鹿児島湾北部を噴源とする3万年前の火山灰です。中国、朝鮮半島、シベリア地域でも確認されており、地層年代を決める鍵層として知られています。

大山倉吉軽石（DKP）

鳥取県の大山を噴源とする6万年前の軽石で、飛んだ範囲は狭いですが、日本海側には広く分布し、地層年代を決める鍵層として知られています。

後期旧石器時代

現生人類が残した文化で、日本では3万年前までを前半、3万年から1.6万年前までを後半として区分しています。

台形石器

柄などの先につけ、狩猟具としても用いられたと考えられています。

鋸歯縁石器

のこぎりの歯のような刃部を持つ石器

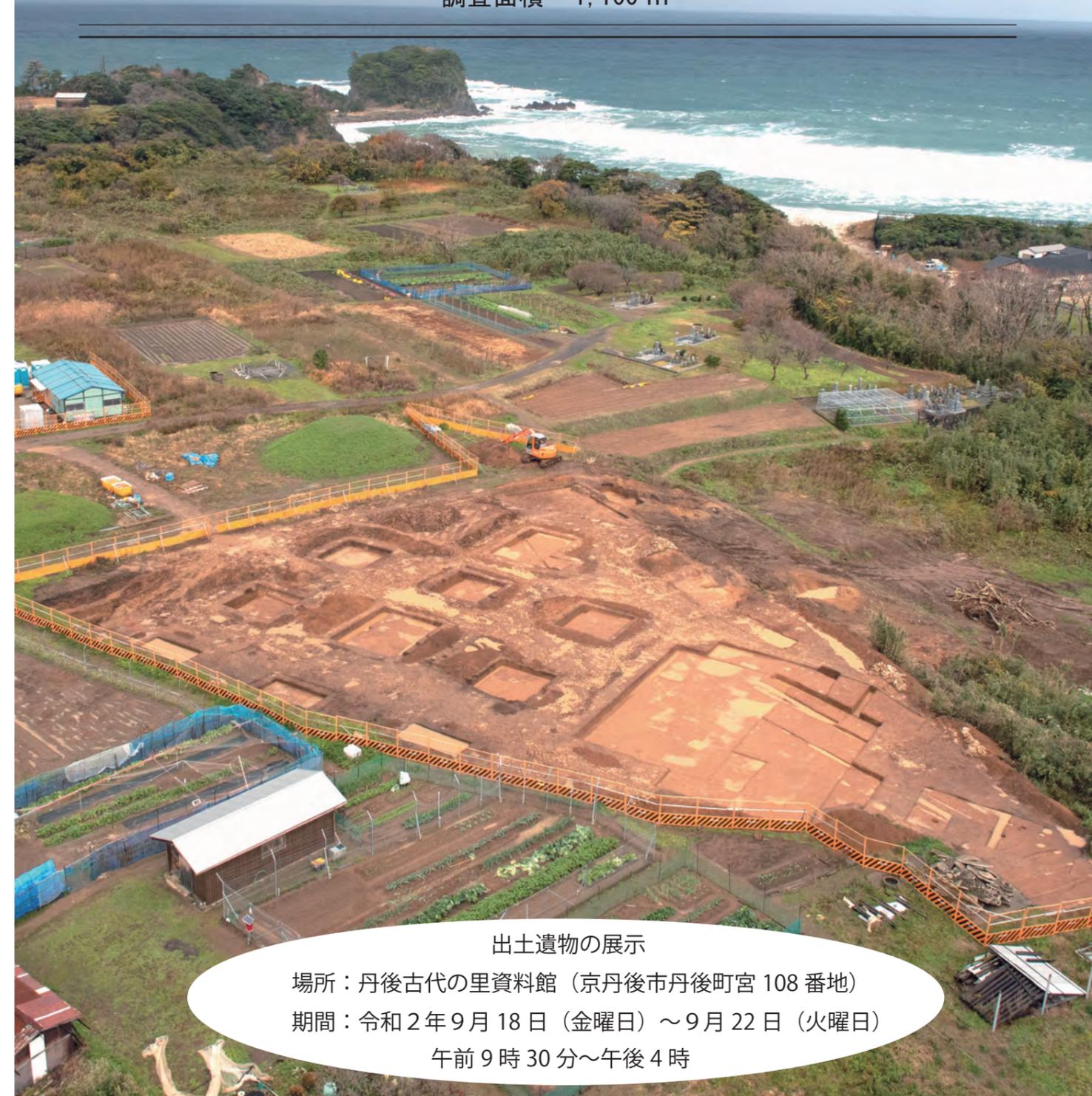
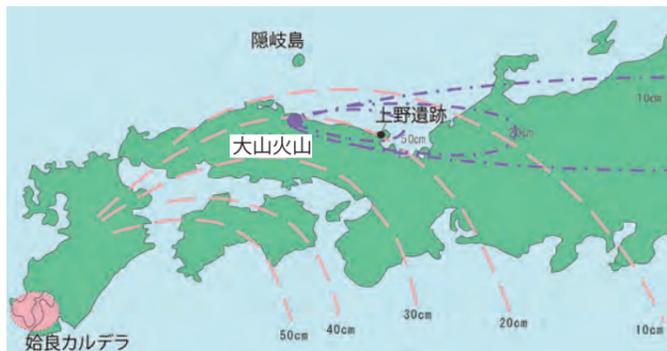
で、道具の加工や動物の解体に用いたものと考えられています。

抉入石器

石器の縁に抉りを施した石器で、道具を加工するときなどに用いたものと考えられています。

黒曜石

火山岩の一種で、ガラス質であるため石器を製作する石材に適しています。産出地は限られており、隠岐島は近畿・中国地方で唯一の産出地です。



出土遺物の展示

場所：丹後古代の里資料館（京丹後市丹後町宮 108 番地）

期間：令和2年9月18日（金曜日）～9月22日（火曜日）

午前9時30分～午後4時

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

1. はじめに

上野遺跡は、旧石器時代から平安時代の集落遺跡です。遺跡は、過去に起こった海水面の変動や土地の隆起によって形成された日本海に面した標高約 27mの海岸段丘上に立地しています（第1図）。

今回の発掘調査は、上野平バイパス新設工事に先立ち、京都府丹後土木事務所の依頼を受け、当センターが実施しました。

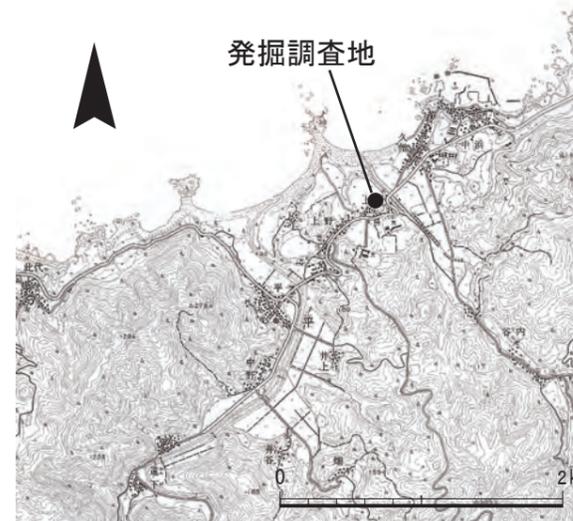
遺跡周辺の海岸沿いの地形は、景観変化に富み、ユネスコによってジオパークの1つである山陰海岸ジオパークに認定されています。その中でも、丹後松島は京都自然200選にも選ばれた景勝地として知られています。

発掘調査は、平成 29 年度から令和元年度にかけて実施しました。平成 29 年度の第1次調査では、段丘西部にトレンチを設定し、古墳時代の土師器を伴う炉跡・土坑を検出しました。平成 30 年度の第2次調査では、段丘東部にトレンチを設定し、調査を実施しました。第2次調査区あいらんざわの東端で始良丹沢火山灰（AT：約3万年前）下位にあたる地層から、チャート製の石器が出土しました。第3次調査では、石器が出土した地点を中心に調査を実施し、剥片や石核などの後期旧石器時代の石器が約 150 点出土しました。今回は旧石器時代の成果について報告します。

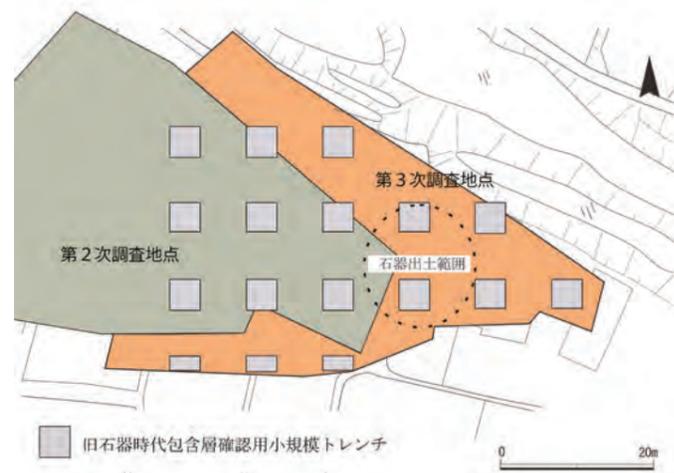
2. 地層について

上野遺跡のある海岸段丘には、約 13 万年前以降に風によって運ばれた土が堆積しています（写真1）。この地層の中には、かつて日本で発生した火山の噴火に伴う、火山灰や軽石が含まれています。

発掘調査地点では、始良丹沢火山灰と、大山倉吉軽石（DKP：約6万年前）を検出しました。石器は始良丹沢火山灰と大山倉吉軽石に挟まれた地層から出土してお



第1図 上野遺跡位置図
(1/50,000 網野・宮津)



第2図 発掘調査トレンチ配置図



写真1 上野遺跡断面写真（北から）

り、火山灰の年代から、6万年から3万年前までの年代に人々が生活していたことがわかりました。

また、地層には、赤味の強い部分と白っぽい部分がありますが、こうした色調の違いは、気候変動によるものと考えられます。色の濃い部分は温暖期に、白い部分は寒冷期に堆積したと考えられます。

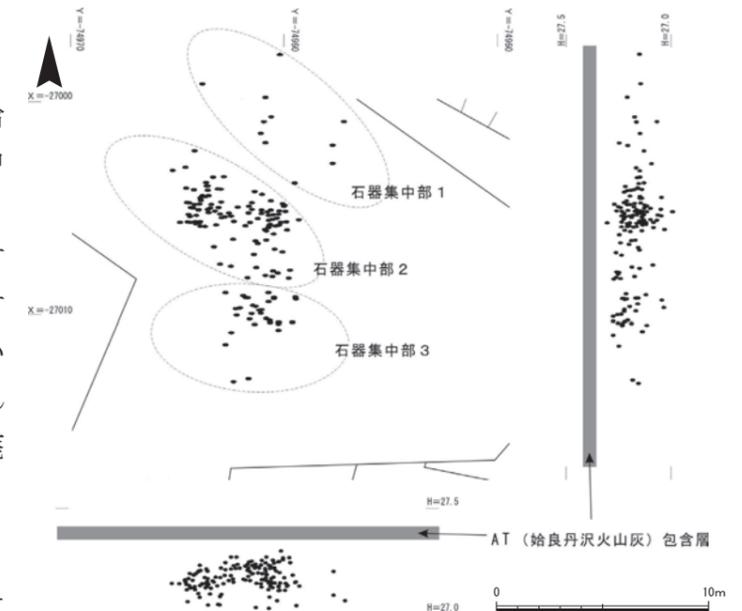
3. 石器の出土状況

石器は、第3図で示したように、始良丹沢火山灰層の下から、3つの集中部を形成した状態で発見されました。石器集中部は、人類活動の単位を示す痕跡とされていますが、石器を製作する時に生じる石片などがほとんどないことから、獲物の解体や道具の手入れなどの作業を行ったのちに、石器が廃棄された痕跡と考えられます。

出土石器は、最大で5cmで多くが3cm以下の小型の石器です。道具と考えられる石器には、台形石器、鋸歯縁石器、

けつにゅう
挟入石器があります。石器には、チャートや玉髓、凝灰岩、黒曜石などが用いられています（写真3）。こうした石材は、遺跡の近くでないことから、旧石器人たちが遺跡外から持ち込んだものと考えられます。

不定形な剥片を用いた台形石器や鋸



第3図 遺物出土状況
●は石器の出土地点



写真2 遺物出土状況（北西から）